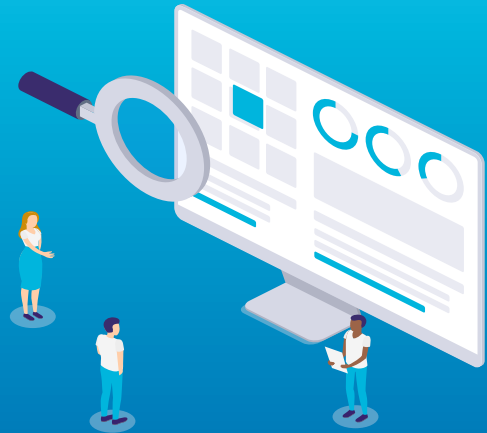


2023年3月期【第1四半期】 決算説明資料

2022年8月10日



目次

- | | |
|---------------|------|
| 1. エクゼクティブサマリ | P.3 |
| 2. 第1四半期決算概況 | P.9 |
| 3. 業績見通し | P.19 |
| 4. 成長戦略 | P.22 |
| 5. ソフトウェア事業環境 | P.25 |
| 6. 当社の優位性 | P.31 |
| 7. 会社概要 | P.35 |

1. エグゼクティブサマリ



1Qの売上高、各段階利益ともに**過去最高**、**通期も上方修正**

2023年3月期 第1四半期累計

売上高

19.5億円

前年同期比 **+34.8%**

営業利益

2.0億円

+2.2億円

親会社株主に帰属する
四半期純利益

1.3億円

+1.4億円

稼働エンジニア数
(2022年6月末時点)

1,007名

前年同期比 **+206名**

案件数

891件

+154件

単価

734千円

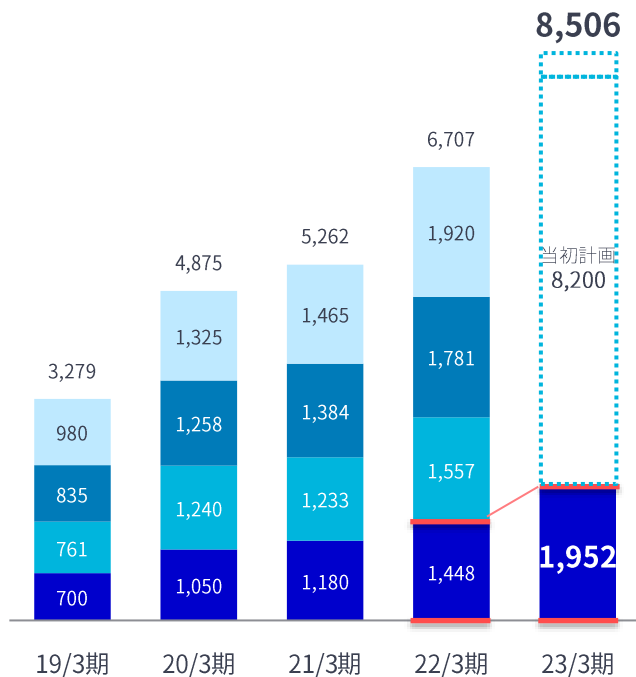
+64千円

1Qのトピックス

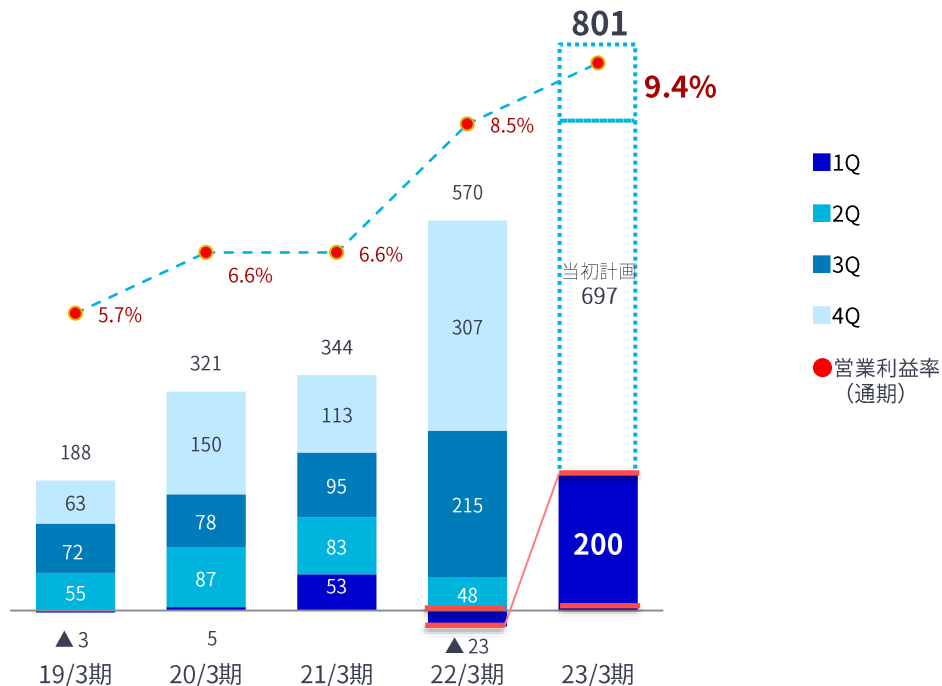
- ・エンジニア数は**1,000名**を突破
- ・案件数、単価ともに1Q時点で過去最高
- ・株式会社ミントを**子会社化**
金融系案件の業績拡大へ
- ・株式会社FUNDINNOとの**資本業務提携**を実施
両社の企業価値向上へ
- ・社外監査役として**女性役員**の就任

売上高は全四半期を通じて過去最高 営業利益は1Q過去最高

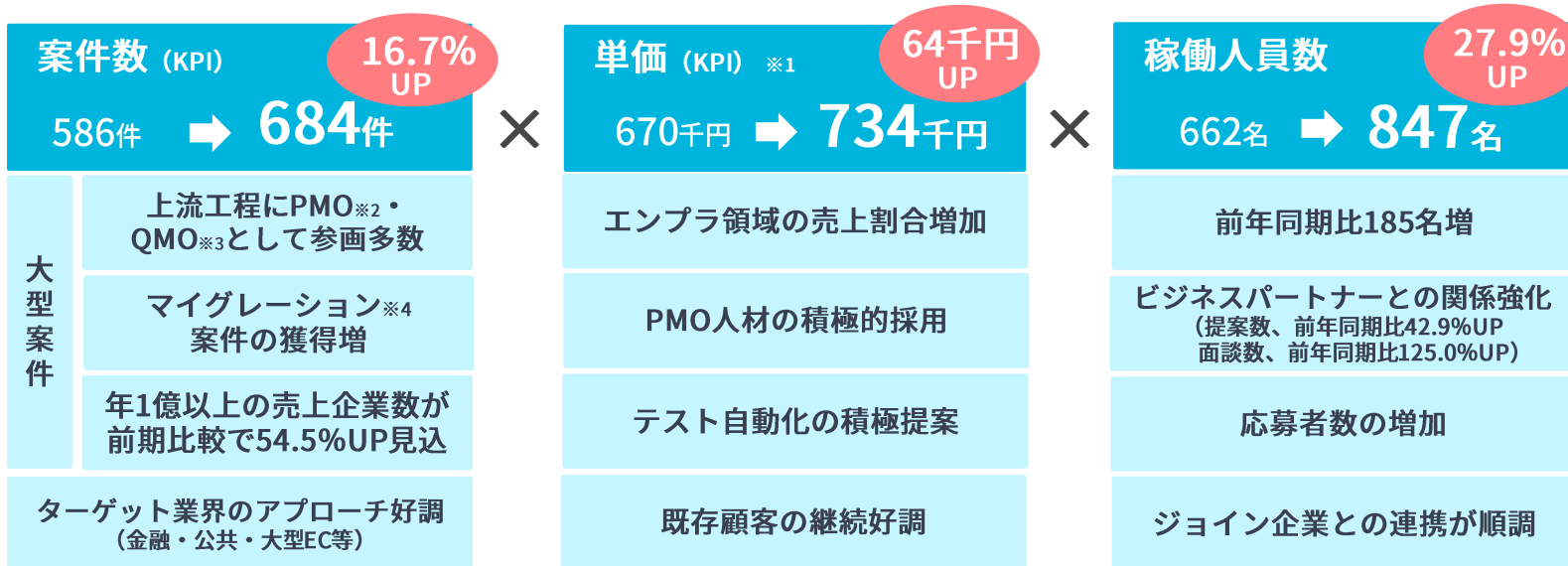
売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)



案件数、単価、稼働人員数がいずれも第1四半期で過去最高



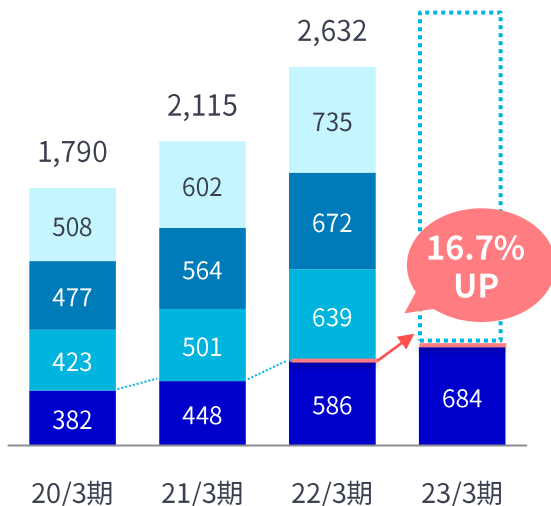
2023年3月期の業績達成に向け、順調に推進

※1 単価（月間）＝ ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）
 ※2 Project Management Officeの略で、組織内における個々のプロジェクトマネジメントの支援を横断的に行う部門や構造システム
 ※3 Quality Management Officeの略で、組織内における個々の品質管理の支援を横断的に行う部門や構造システム
 ※4 ソフトウェアやシステム、データなどを別の環境に移動したり、新しい環境に切り替えたりすること

全事業が堅調に増加

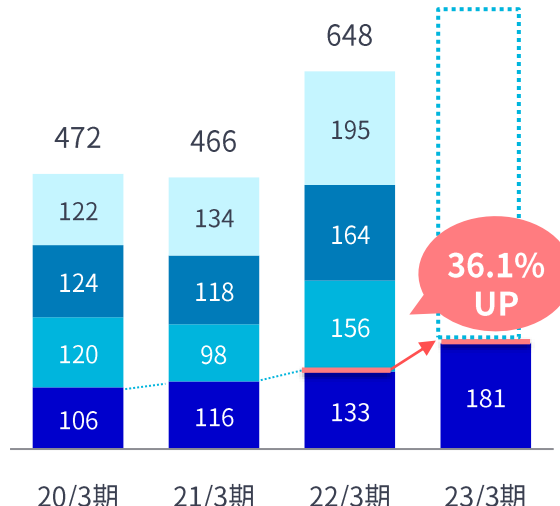
ソフトウェアテストサービス事業

(単位：件)



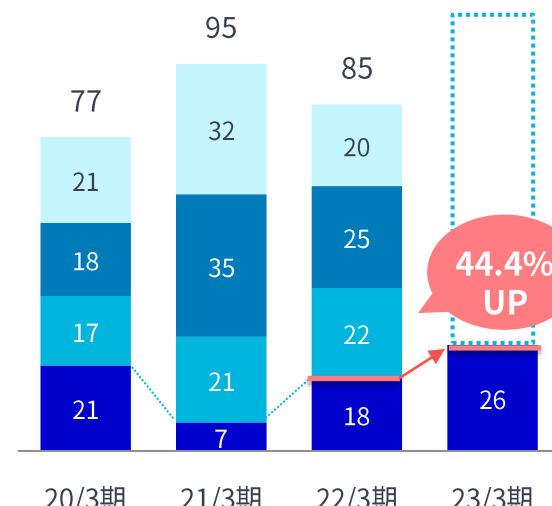
Web/モバイルアプリ開発サービス事業

(単位：件)



オフショアサービス事業

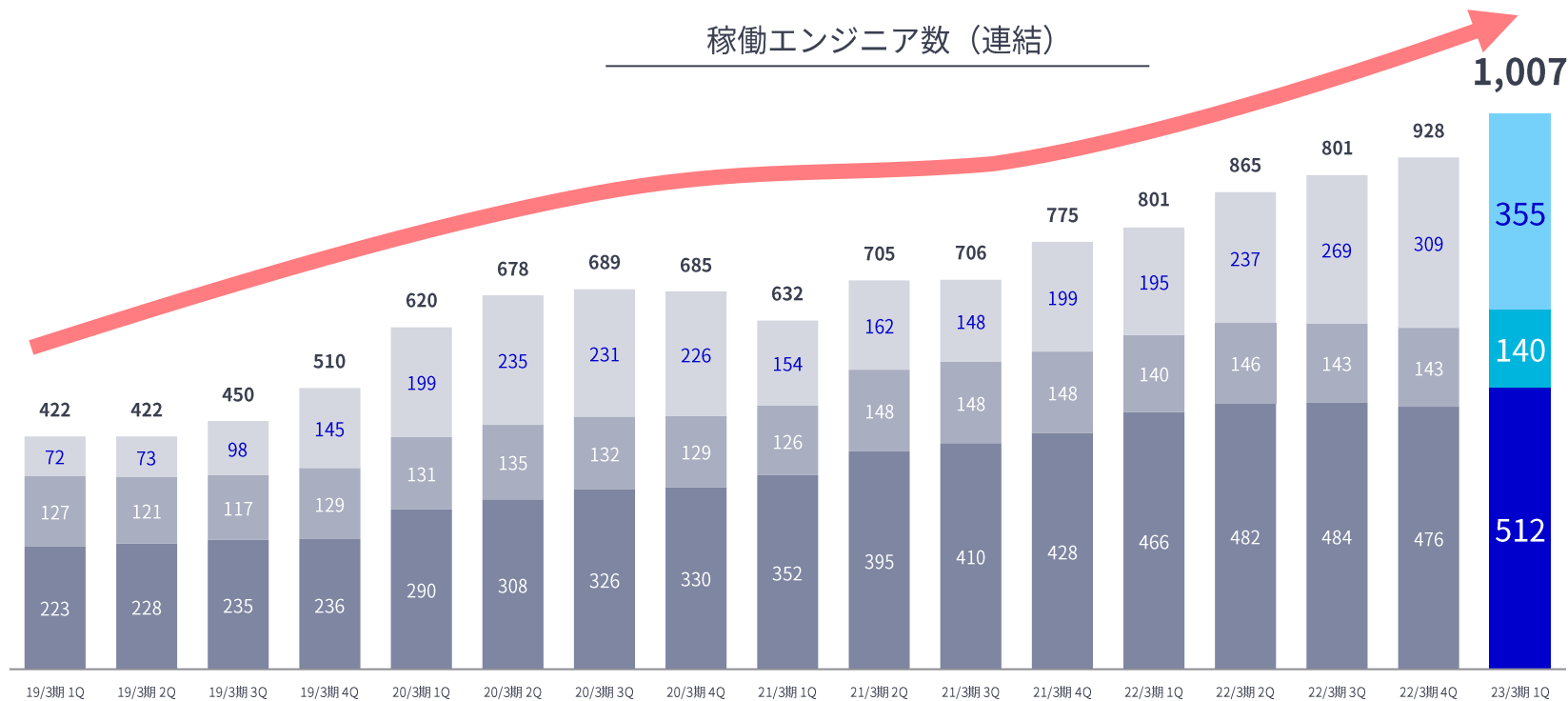
(単位：件)



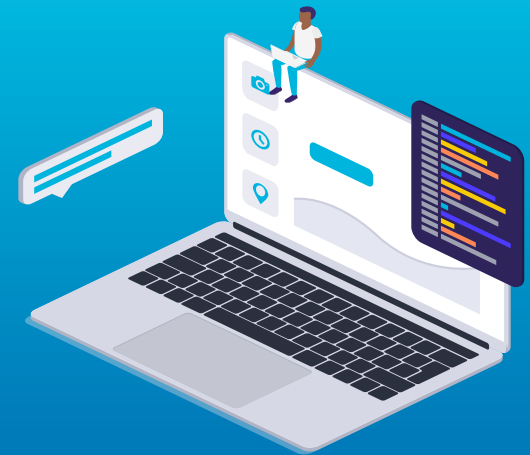
■1Q ■2Q ■3Q ■4Q

グループ全体のエンジニア数は**1,000名**突破！

稼働エンジニア数（連結）



2. 第1四半期決算概況



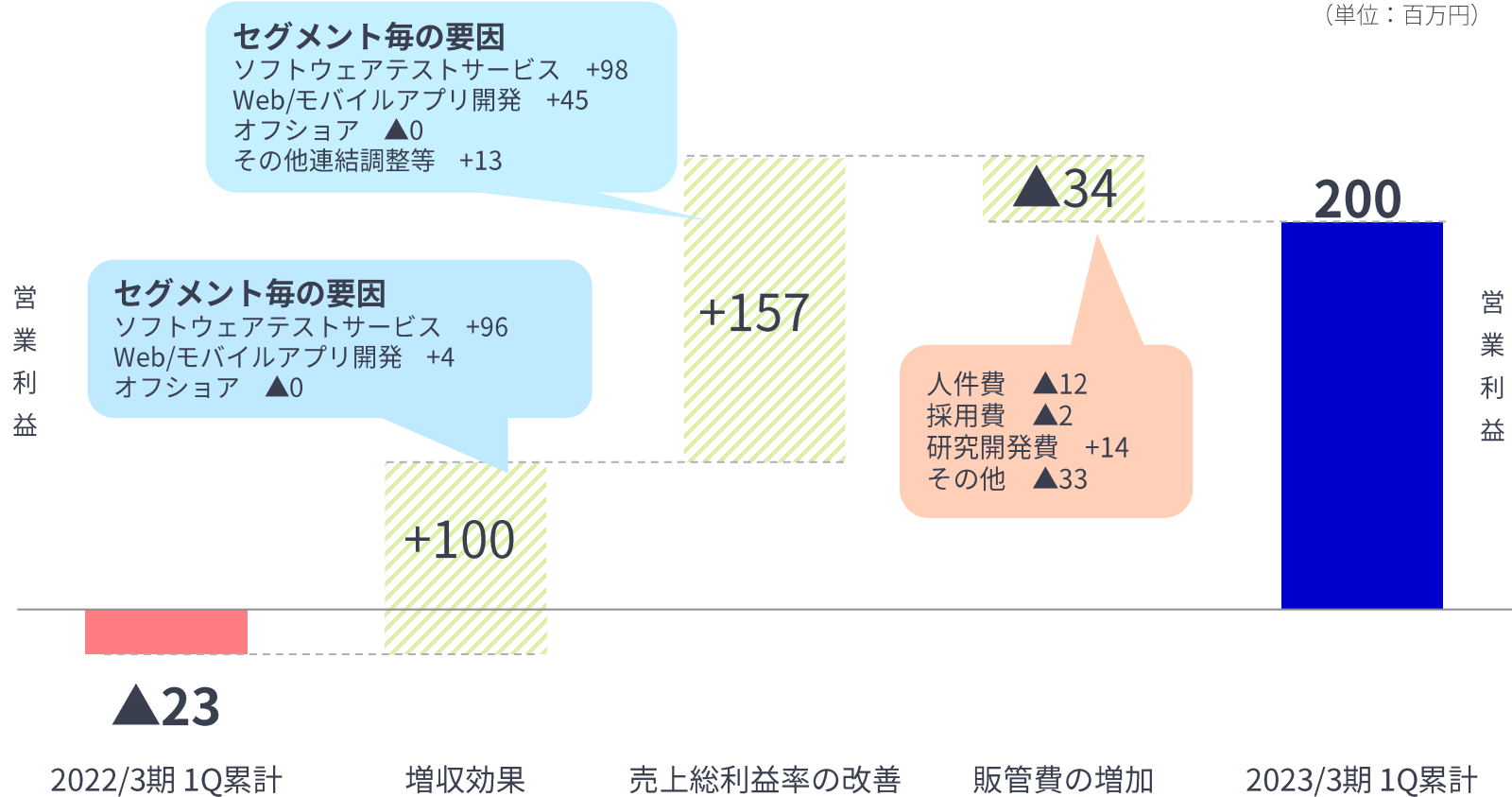
四半期3カ月間で過去最高となる売上高**19.5億円**

(単位：百万円)

	FY2022 1Q累計	FY2023 1Q累計	増減額	増減率
売上高	1,448	1,952	+503	34.8%
営業利益	▲23	200	+224	-
経常利益	▲22	204	+226	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲12	130	+143	-
1株当たり 四半期純利益 (円)	▲1.80	19.28		

営業利益の増減要因

(単位：百万円)



連結販管費内訳	FY2022 1Q累計		FY2023 1Q累計	
	(百万円)	(百万円)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	312	346	+34	+10.9%
人件費	132	147	+12	+9.3%
採用費	45	47	+2	+5.0%
研究開発費	23	9	▲14	▲59.1%
その他	108	141	+33	+30.8%

人件費 +12 →営業およびガバナンス体制強化に伴う人数増加
 採用費 +2 →採用活動強化に伴う増加
 研究開発費 ▲14 →前期はT-DASH（ソフトウェアテスト自動化ツール）等の新規サービス開発に対する先行投資があった
 その他 +33 →PR費用の増加、のれん償却費の増加、行動制限緩和に伴う出張旅費の増加、等

連結正社員入社人数 (エンジニア+販管部門)	FY2022 1Q累計		FY2023 1Q累計	
	(名)	(名)	前年同期比増減 (名)	前年同期比 (名)
総数 (うちエンジニア)	65 (56)	63 (56)	▲2 (-)	▲3.1% (-%)

	FY2022 1Q累計		FY2023 1Q累計	
	前期実績		実績	前期比
ソフトウェア テストサービス事業	売上高	1,297	1,777	+37.0%
	営業利益	22	201	+803.5%
	利益率	1.7%	11.4%	+9.7pt
	エンジニア1人当たりの売上高(千円)	670千円	734千円	+64千円
Web/モバイルアプリ 開発サービス事業	売上高	183	223	+21.5%
	営業利益	▲34	16	-
	利益率	▲18.5%	7.2%	+25.7pt
オフショア サービス事業	売上高	23	17	▲25.3%
	営業利益	4	▲0	-
	利益率	21.2%	▲0.1%	▲21.3pt
セグメント間取引消去 及び全社費用	売上高	▲55	▲65	-
	営業利益	▲17	▲17	-
連結	売上高	1,448	1,952	+34.8%
	営業利益	▲23	200	-
	利益率	▲1.7%	10.3%	+12.0pt

※エンジニア1人当たりの売上高(月間) = ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数(正社員+契約社員+ビジネスパートナー)

ソフトウェアテストサービス事業

エンタープライズ案件の拡大により一層の**案件大型化**を進める

- 大型案件の上流工程からPMO・QMOとしての参画増加、単価上昇へ
- 新たにグループインした株式会社ミントとのシナジーにより、金融系案件の業績拡大を目指す
- 金融・公共・流通などターゲット業種からの受注拡大
- 当社のテスト・品質向上手法を身に付けた社員による品質の安定
- 既存システムのマイグレーション案件の受注獲得
- ビジネスパートナーの有効活用による案件ボリューム拡大と効率化

Web/モバイルアプリ開発サービス事業

セキュリティ事業拡大、
新規技術の積極導入・開発を目指す

- 脆弱性診断による**セキュリティ需要の取込み**で収益向上に貢献
- **メタバース分野（xR技術）**に進出、新サービスの開発
- **リバースエンジニアリングサービス※**の販売が好調

※ システム操作やソースコードの解読により開発ドキュメント（各種設計書）を作成するサービス

オフショアサービス事業

ロックダウン後の経済正常化に対応すべく
エンジニア積極増強で**事業拡張**

- **現地日系企業との取引拡大**により各四半期で安定した売上へ
- エンジニアの積極採用
- **フリーランスのビジネスパートナー**も活用

クラウド上でスマホがレンタル出来る 『AnyTest』 8月16日にローンチ



いつでもどこでも
実機テスト！

外出先で / オフィスで / 自宅で

クラウドで実機を遠隔操作
豊富な機種・OSのラインナップ
リモートなのにラグのない操作感

モバイル端末の実機テストは
AnyTestに決まり！

AnyTest interface screenshot showing various mobile devices for testing.

AnyTestとは

「いつでもどこでも」をコンセプトに、当社で保有するモバイル端末をクラウド上で操作可能にさせるツール

シミュレータではなく、**実機**の操作が可能

提供プラン

月額**5,000**円(税抜)

※5時間まで利用可能、以降は延長料金が発生

ユーザーの課題

- ・検証用のモバイル端末が用意出来ない (コスト・納期より)
- ・端末のレンタルや配送が手間
- ・予算等の問題で多端末検証に二の足 (主要端末のみの確認が実情)

当社の課題

- ・在宅時の業務スピード向上化 (会社⇄自宅の発送・返却対応をなくす)
- ・モバイル端末在庫の有効活用

当社課題とユーザー課題の
解消を実現

	2022FY 1Q累計		2023FY 1Q累計			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	1,448	100.0	1,952	100.0	+503	+34.8%
売上原価	1,159	80.0	1,404	72.0	+245	+21.2%
労務費	762	52.6	838	43.0	+76	+10.1%
外注費	312	21.6	511	26.2	+199	+63.8%
その他	85	5.9	54	2.8	▲30	▲35.8%
販管費	312	21.6	346	17.8	+34	+10.9%
人件費	135	9.3	147	7.6	+12	+9.3%
採用費	45	3.1	47	2.4	+2	+5.0%
研究開発費	23	1.6	9	0.5	▲14	▲59.1%
その他	108	7.5	141	7.2	+33	+30.8%

(単位：百万円)

資産の部	2022FY	2023FY 1Q	前期末差
現金及び預金	1,356	987	▲368
売掛金+契約資産	911	908	▲2
流動資産合計	2,345	1,994	▲350
有形固定資産	89	86	▲3
のれん	64	369	+305
ソフト+ソフト仮	133	129	▲3
無形固定資産合計	197	498	+301
投資その他の資産	298	366	+67
固定資産合計	585	950	+365
資産合計	2,930	2,945	+14

(単位：百万円)

負債の部	2022FY	2023FY 1Q	前期末差
買掛金	175	209	+33
短期有利子負債	141	136	▲5
未払金	387	392	+4
流動負債合計	1,159	1,050	▲108
長期有利子負債	54	49	▲5
固定負債合計	58	51	▲6
負債合計	1,217	1,102	▲115
純資産の部			
株主資本合計	1,713	1,843	+130
純資産合計	1,712	1,842	+129
負債純資産合計	2,930	2,945	+14

3. 業績見通し



第1四半期決算好調を受け、**売上、利益ともに上方修正へ**

(単位：百万円)

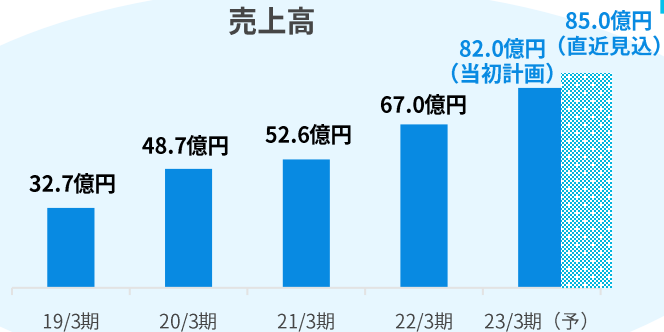
	FY2022累計 実績	FY2023累計 当初予想 (5/13)	FY2023累計 修正予想 (8/10)	対FY2022 増減額	対FY2022 増減率
売上高	6,707	8,200	8,506	+1,799	26.8%
営業利益	570	697	801	+231	40.5%
経常利益	580	706	810	+230	39.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	413	482	543	+130	31.2%
1株当たり 当期純利益 (円)	60.17	71.29	79.98		

大型案件における上流工程のPMO・QMOとしての参画増加や、エンタープライズ領域の拡大等、第1四半期の業績が好調に推移したことを踏まえ、2022年5月13日に発表しておりました業績予想を上記のとおり上方修正いたしました。

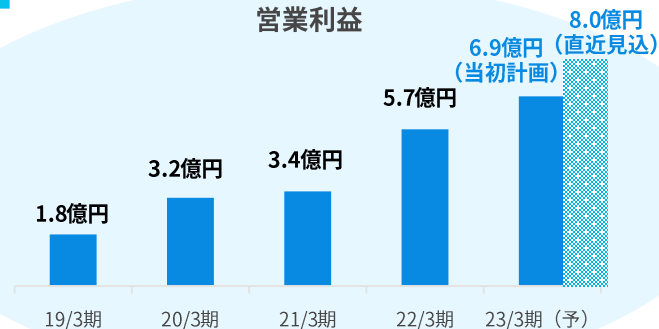
業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

連結

売上高

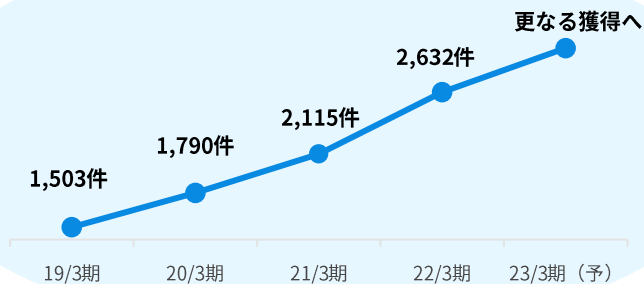


営業利益

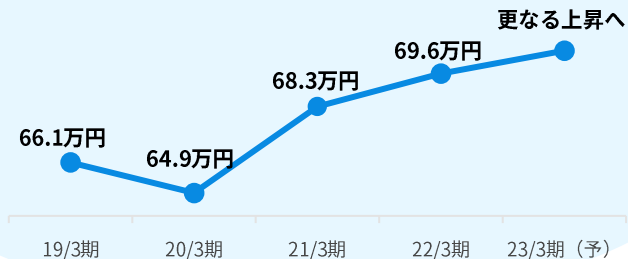


ソフトウェアテストサービス事業

案件数



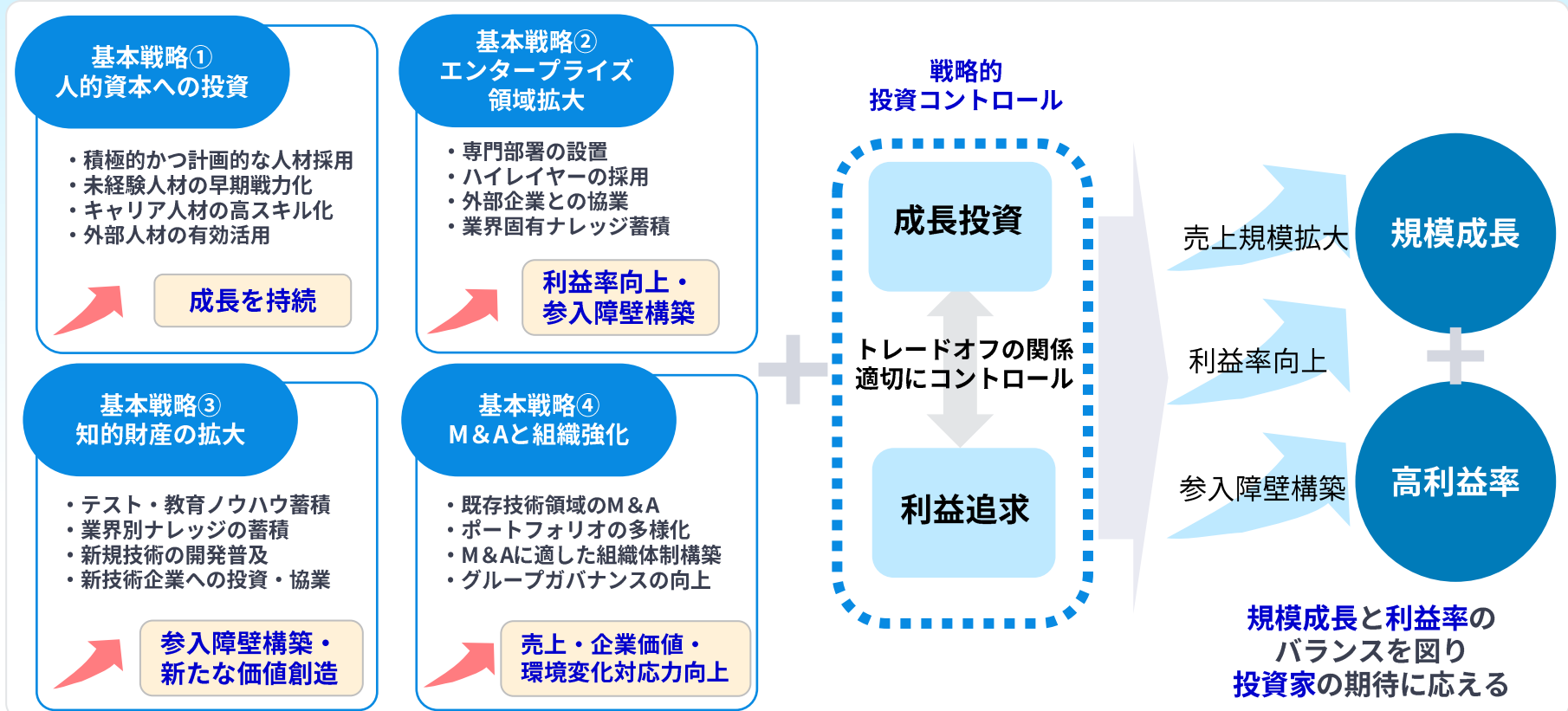
エンジニア1人当たり売上高の推移



4. 成長戦略



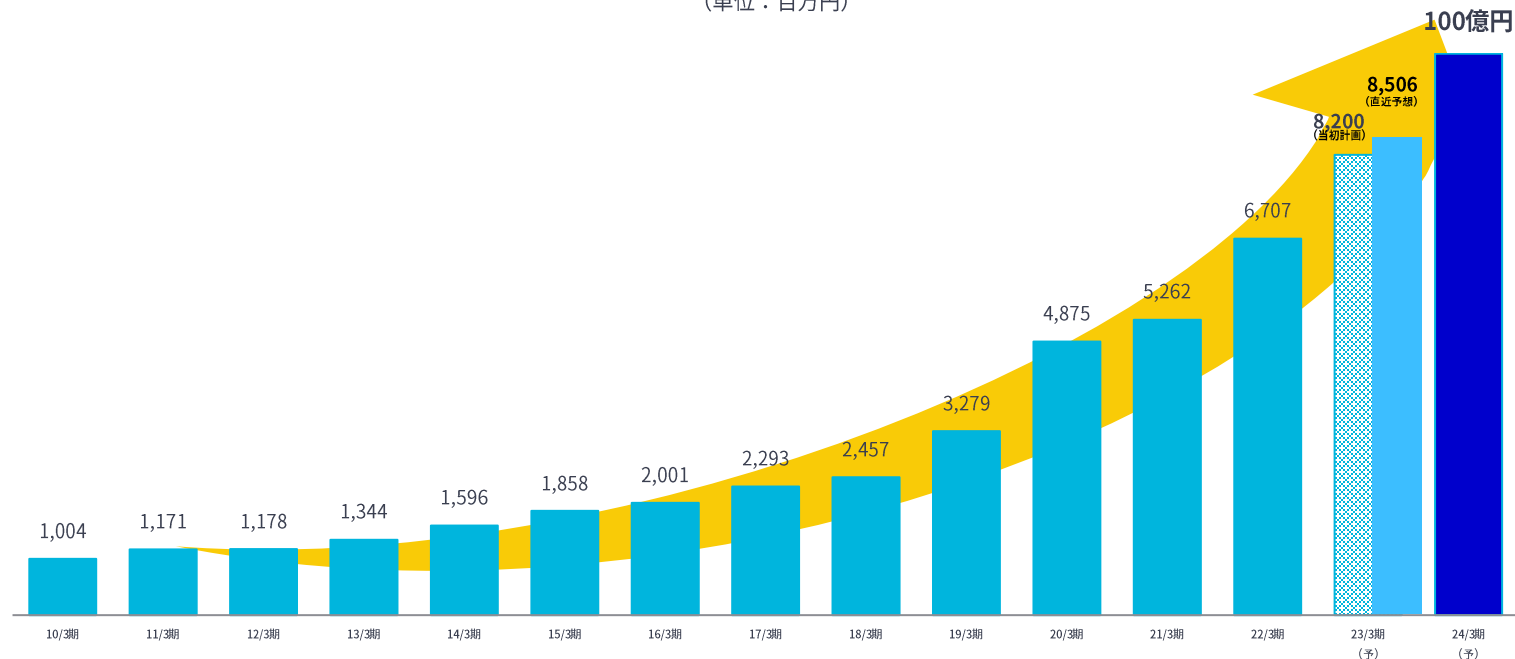
4つの基本戦略と投資コントロールで**規模成長**と**高利益率**を両立



ソフトウェアテスト市場の成長から、2024/3期に売上高**100億円**を目指す

売上高の推移

(単位：百万円)

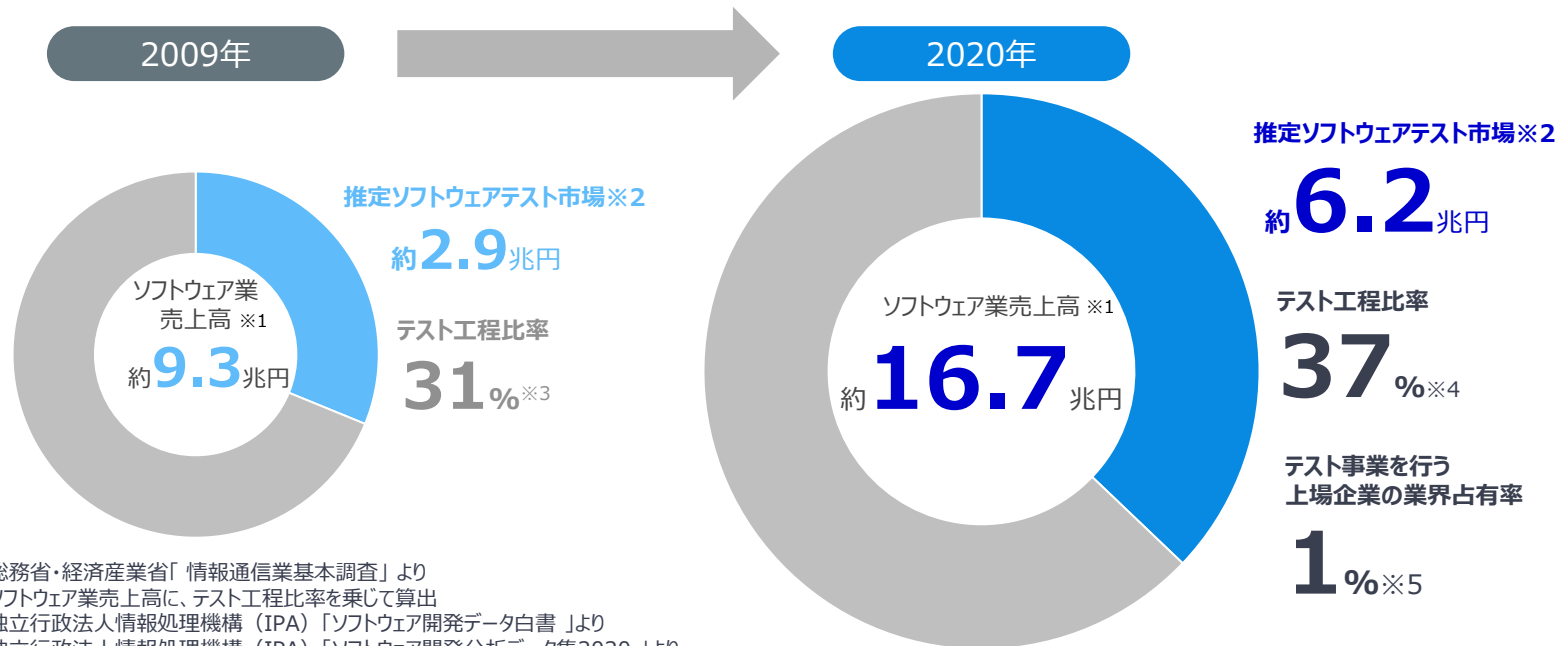


5. ソフトウェア事業環境



当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約**6.2兆円**

ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



- ※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より
- ※2 ソフトウェア業売上高に、テスト工程比率を乗じて算出
- ※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より
- ※4 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より
- ※5 テスト・デバッグ事業をメインとする上場企業の売上合計より

ターゲット業界の高いCAGR、ソフトウェアテスト市場も**CAGR12.4%**

		市場規模		CAGR	出所	
	エンタープライズIT	国内	2024年	12.8兆円	3.4%	IDC Japan 国内エンタープライズIT市場予測
	AI	国内	2025年	4,910億円	25.5%	IDC Japan 国内AIシステム市場予測
	メタバース	世界	2024年	7,833億ドル	13.1%	Bloomberg https://www.bloomberg.com/professional/blog/metaverse-may-be-800-billion-market-next-tech-platform/
	Web/E コマース	世界	2024年	4.9兆ドル	20.7%	eMarketer, Dec2016 経済産業省「平成29年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備」（電子商取引に関する市場調査） 世界のBtoC電子商取引市場規模の推移
	IoT	国内	2025年	10.2兆円	10.1%	IDC Japan 国内IoT市場 支出額予測
	スマート自動車/自動運転	国内	2025年	1.9兆円	19.5%	矢野経済研究所 国内コネクテッドカー関連市場規模推移と予測

その他、国内外のソフトウェアテストが関係する業界の市場規模を合わせ、世界全体での可能性

	ソフトウェアテスト	世界	2025年	344.9億ドル	12.4%	Technavio Software Testing Services Market by Product, Geography, and End-user - Forecast and Analysis 2021-2025
--	-----------	----	-------	----------	-------	---

「デジタル庁の創設」「コロナ禍で進んだ社会の変化」 「サイバー攻撃の増加」によりDXが加速、セキュリティ対策需要も増大

コロナ禍で進んだ社会の変化

- ・テレワークの定着
- ・EC消費の定着
- ・オンラインコミュニケーションの定着
- ・余暇時間の増加

デジタル庁の創設

- ・国/自治体のシステムの統一
- ・行政のオンライン化
- ・品質意識の向上
(コロナ禍での不具合続出)

サイバー攻撃の増加

- ・身代金目的のサイバー攻撃増加
- ・日本の大企業の多くがサイバーセキュリティ対策不十分

デジタルトランスフォーメーション (DX) 加速

2.セキュリティリスク増

セキュリティサービス
需要の増加

1.ソフトウェア開発

エンタープライズ領域の
ソフトウェアテスト
需要の増加

3.人材不足

人材不足を解消する
手立てがカギ

ソフトウェア開発企業の悩み

- ・コスト高な開発エンジニアの労働時間の約4割がテスト・検証に割かれる
- ・テスト・検証は開発者のモチベーションが上がらない為、非効率
- ・開発者自身がテスト・検証を行うのは客観性が無く信頼性に欠ける

テスト工程がアウトソースされなかった理由

- ・大手SIerが案件を一括受注し、傘下の下請け・孫請けに発注。
その開発エンジニアがテスト工程まで行う構造であった。

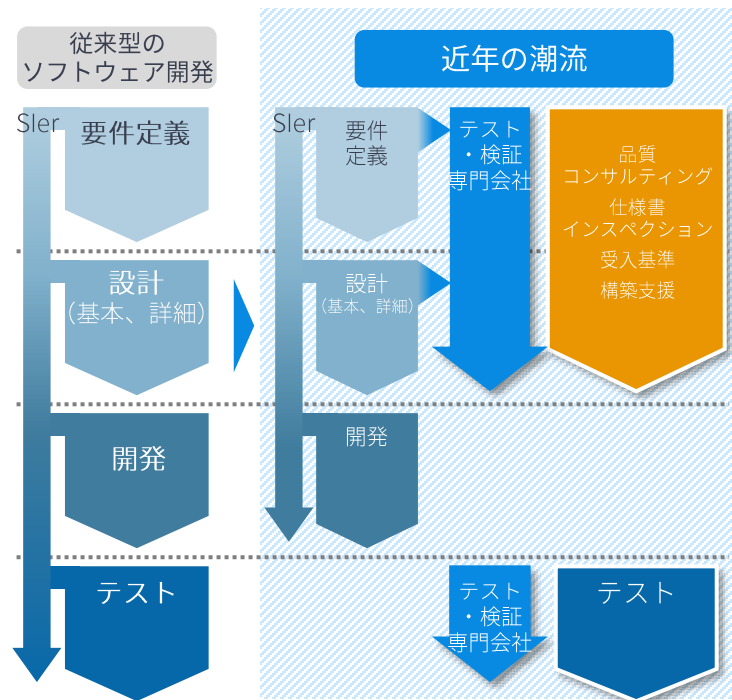


テスト工程のアウトソース化が加速！

- ・開発担当者によるテスト時間の短縮により、開発コストが減少
(開発担当者がテストを実施する場合の※**60%~70%程度**で対応が可能)
※当社調べ
- ・再現性・共有性の高いテストの方法論が確立 (各社独自のメソッド)
することで**網羅的で高効率**なテストが実現可能に
- ・第三者のテスト専門会社によるテスト・検証の有効性が注目

ソフトウェアテストは 開発企業から**テスト専門企業**へ

ソフトウェア開発の業務フローの変遷



ユーザー企業からの受入テストの増加

背景

- 各社がDX投資を推進（2018年に経済産業省が推進を提唱）
- 旧システムのマイグレーション、パッケージシステムの導入が増加。ユーザー企業から開発会社への発注増
- DX推進により、4年で約1.2兆円の市場規模拡大(ソフトウェア業売上高)



ユーザー企業の悩み

- プロジェクトの品質が心配（技術スキルでSierと対峙できない）
- 発注しているSier・開発会社の品質が悪い
- ユーザー企業の人員不足（受入テスト時に要員確保が出来ない）



品質管理の**第三者機関**として、バルテスがユーザー企業をサポート

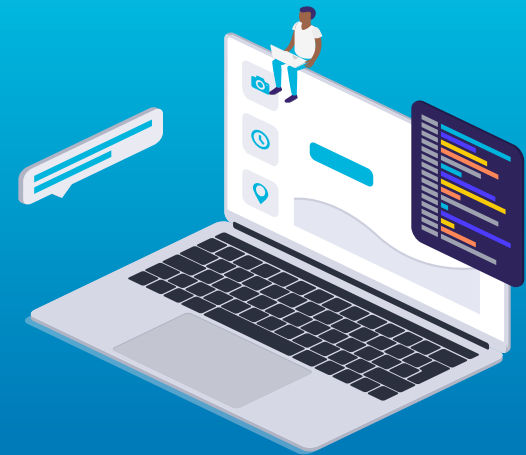
受入テスト時の提案例



当社がQCD※を管理・支援
ユーザー企業からの依頼が増加中

※QCD：Quality(品質)・Cost(コスト)・Delivery(納期)の頭文字をとった用語

6. 当社の優位性



当社の優位性 創業以来の体系的な教育メソッド

当社の優位性 「体系的な教育メソッド」

月160時間～320時間 充実の入社時研修

入社時1か月から2か月は業務につかず、研修のみに集中
 「座学・演習・グループワーク・課題・試験」で技術を体得
 親切丁寧な講師陣が、個別指導塾並みにみっちり指導

年間を通して自由に学べる 50講座以上「バルゼミ」

テスト技術の習得や資格取得支援はもちろんのこと、
 傾聴スキル・プレゼン・エクセル・会計をはじめと
 するビジネススキルの講座も取りそろえ、
 外部人材にも開放



新卒
未経験者
320時間 研修



キャリア
160時間の研修



オンライン
教育体制

高スキル エンジニア 集団

・日本初！
ISTQB Global
Partner 取得

世界130カ国のテスト
技術者認定の最上位
取得は全世界で10社のみ

・JSTQB保有率
92%以上！

(入社2年目以降の正社員)
国内のソフトウェア
テスト技術者認定

顧客からの
「高い信頼」
+
事業の
「高成長率」

バックボーン 長年社内で積上げられ標準化されたテスト・品質の知識

コア 暗黙知を組織知に広める「共有文化」

▶ 当社の優位性 エンタープライズ領域に特化した体制と専門性

エンタープライズ領域の特徴

- 単価 **高** 案件規模 **大** 契約期間 **長**
- テスト以外の知識(開発、業務知識)を求められる
→ 難易度 **高**
- マイグレーション等※の増加で市場は **拡** 大

※ソフトウェアやハードウェア、システム、データ、開発言語などを別のプラットフォームに移行したり、新しいシステムに切り替えたりすること

部署別売上高構成比 2022/3期



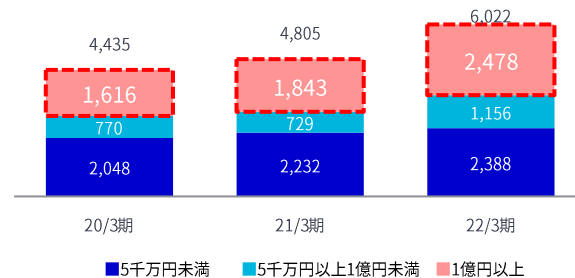
ソフトウェアテストサービス売上全体の
50%を占めるまでに成長

当社の優位性

エンタープライズ専門部署を2020年4月に設立
組織体制の強化により **専門性が向上**

- 専門部署による組織的対応 ・ 経験豊富なハイレイヤーの採用
- 本領域に強い人材を供給可能な外部協力会社との取引拡大
- 長年蓄積された質、量ともに豊富な当社のテストノウハウ
- 上流工程からの品質支援ニーズに対応

取引先あたり売上規模別の売上高推移
(ソフトウェアテストサービス事業)



案件の大型化が進む

サイバー攻撃増加

- 日本企業へのアタック増加
- 日本企業の多くがサイバーセキュリティ対策不十分



個人情報取得



サイト改ざん



不正ログイン



セキュリティ・脆弱性診断サービス
 (脆弱性の可視化・治療)

- ▶ Webシステムやモバイルアプリ、IoT 機器を対象に、ハッキング等の脆弱性を確認する
診断サービス+脆弱性向上のための対策アドバイス
- ▶ 直近3年CAGR **36.1%**と順調に拡大



攻撃可視化・防御ツール
 「Prime WAF」
 (攻撃に対する防御)

- ▶ 初期費用0円、圧倒的低コストで導入可能なWAFを2022年3月1日ローンチ
- ▶ サイバー攻撃を可視化、その攻撃のみをブロック。分かりやすいUIで、攻撃防御の「結果」が明確
- ▶ 低コスト、カンタン導入で中小企業も利用可能

サイバー攻撃に関し、**点ではなく線**で対策を行う
 セキュリティサービスが提供可能に

7. 会社概要



「品質向上のトータルサポート企業」を経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス株式会社
会社設立	2004年4月
上場	2019年5月 東証マザーズ (現 東証グロース 証券コード：4442)
本社住所	大阪市西区阿波座1-3-15 (大阪本社)
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
子会社	バルテス・モバイルテクノロジー株式会社 株式会社アール・エス・アール 株式会社ミント VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines)
従業員数	740名 (2022年6月末 グループ5社計)
内、総エンジニア数	652名 (2022年6月末 グループ5社計)
総資産	2,945百万円 (2022年6月末 グループ5社連結)



代表取締役社長

田中 真史
Tanaka Shinji



私たちは品質にコミットし、安心・安全なICT社会の実現に貢献します。



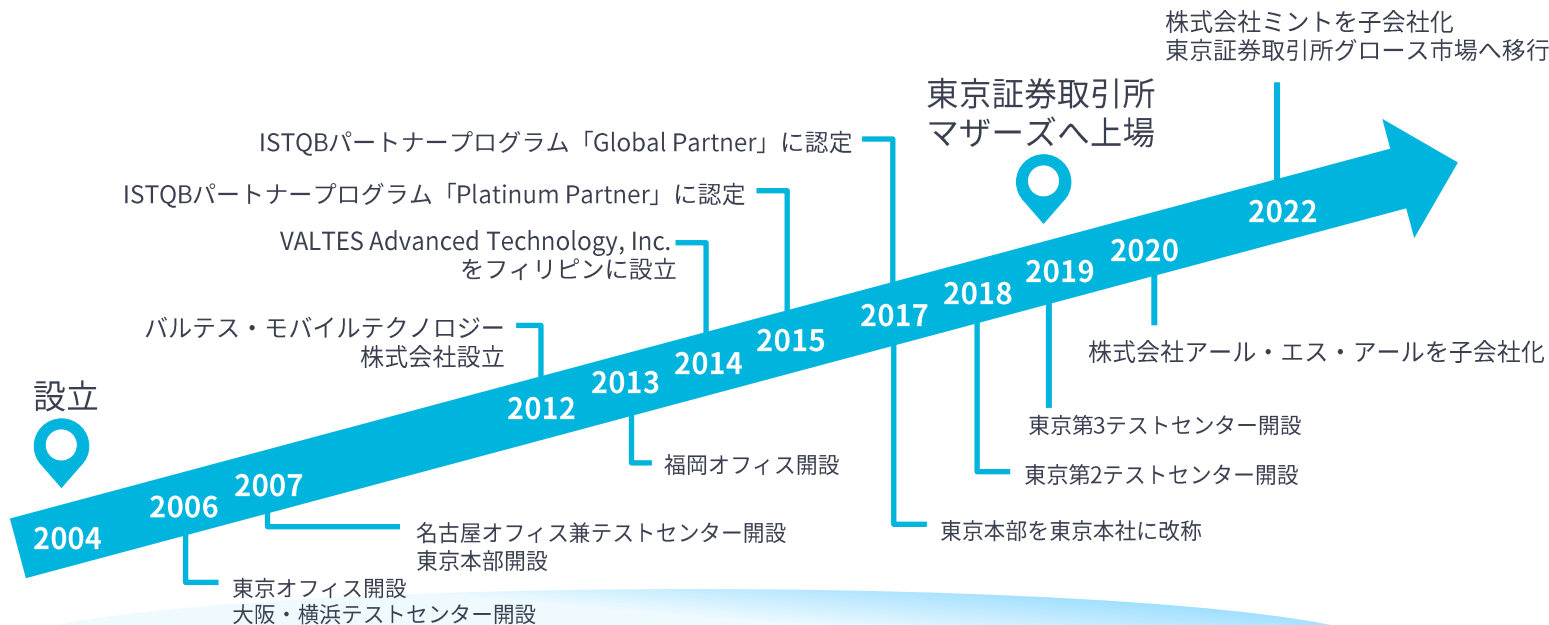
私たちはICT社会に貢献する人材を育成します。



私たちは多くの価値を創り、お客様と共に喜びを分かち合います。

2004年4月、設立。ソフトウェアの品質に関わるサービスを提供。

ソフトウェアテスト専門会社として、**年間2,600件以上**のプロジェクト実績を誇る



ソフトウェアテストサービス 3つの特長

高スキル エンジニア

- ▶ エンジニア適正試験
 - ▶ 独自の研修カリキュラムによる早期戦力化
 - ▶ JSTQB※1保有率 92%以上！（入社2年目以降の正社員）
 - ▶ ISTQB※2 Global Partner
- ※全世界10社のみ、**日本初！**

豊富な実績

- ▶ 業種毎の豊富なテスト観点
- ▶ 年間2,600プロジェクト、1,000社以上の導入実績

標準化・ プロセス

- ▶ ISO/IEC/IEEE 29119※3準拠テンプレート
- ▶ QUINTEE※4（テストの進行基準）
- ▶ 標準化されたテスト設計手法による
抜け漏れ・誤認識を排除

新卒



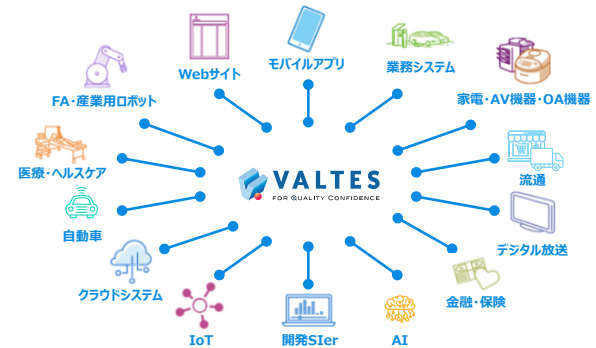
未経験者



キャリア

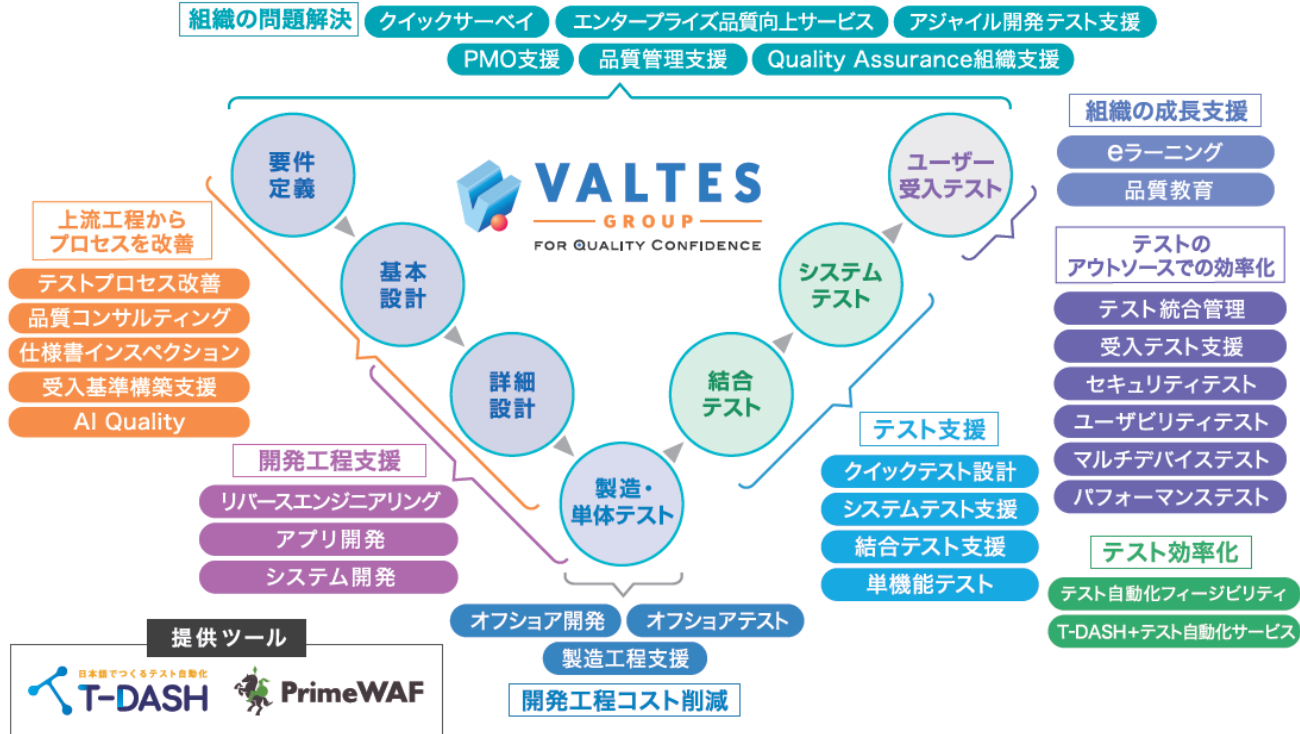


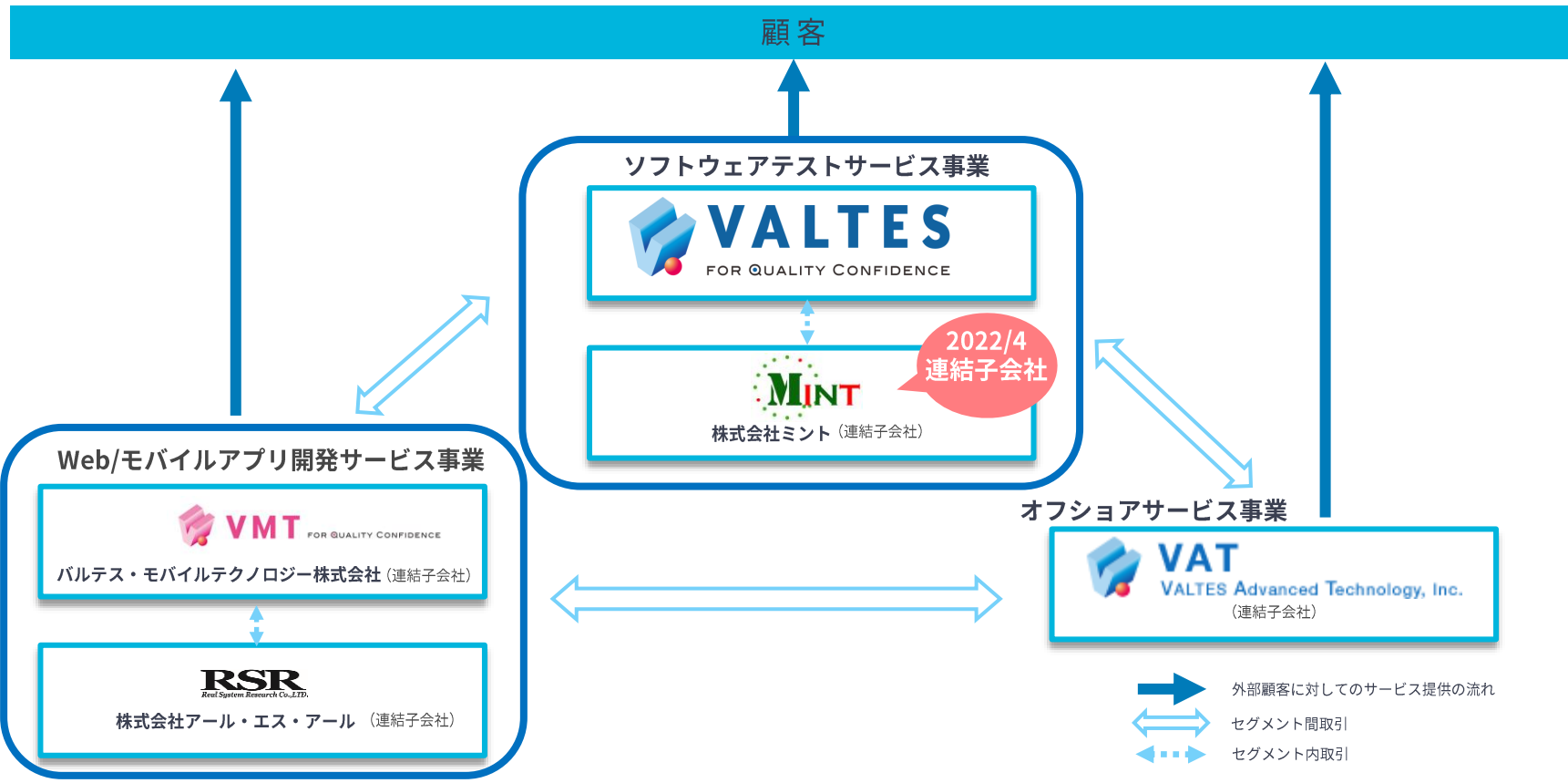
日本で初のグローバルパートナー



※1：JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと
 ※2：ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130カ国のテスト技術者認定組織のこと
 ※3：ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
 ※4：QUINTEEとは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質の向上支援サービスを提供





当社サービス一覧

テスト情報プラットフォーム「Qbook」

ソフトウェア品質向上のためのプラットフォーム。バルテスが培ってきたテスト・品質向上ノウハウを提供



テスト自動化ソフトウェア「T-DASH」

非エンジニアでも“カンタン”にWebアプリケーションの動作確認・検証を可能にするテスト自動化ツール

日本語でつくるテスト自動化



従量制のクラウド型WAFサービス「PrimeWAF」

簡単・低価格で導入可能なクラウド型のWAFサービス
様々なサイバー攻撃からWebサイトを守ります



出資法人一覧

株式会社カラーアンドデコ

3D・VRを利用したインテリア空間デザインサービスを提供



ICheck株式会社

PCR検査キット事業や健康プラットフォーム事業を提供



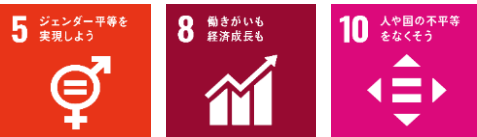
株式会社FUNDINNO

国内最大級の株式投資型クラウドファンディングサービスのプラットフォームを展開



2022/4
出資

働きやすい環境の整備



- 男性育休制度導入
- 働き方改革
- ホワイト企業認定
- 必要に応じて、抗原検査キットやPCR検査を従業員に無償提供
- パートナーシップ制度の導入
- 社外監査役として女性役員の就任

【社員インタビュー】男性社員の育休取得実態



▲育休実績のある男性社員のインタビュー記事を、社内でも積極的に展開し、取得を推奨

▲オンライン親観会制度などを設けて在宅勤務社員のフォローも実施

IT人材の創出



- 充実した社内研修システム
- 当社のソフトウェアテストノウハウを生かした資格支援サービスの提供
- ソフトウェアテストに関する技術書籍の出版
- ソフトウェア品質向上プラットフォーム『Qbook』の運営
- テスト技術をゼロから学べる無料eラーニングコンテンツの公開



▲未経験者は2カ月、経験者でも1カ月の入社時研修を実施

技術革新の拡大を図る



- 京都工芸繊維大学との共同研究論文を発表
- ソフトウェア製品の品質確保のために世界中の企業とパートナーを組むことで目標達成を実現

安心・安全なまちづくり



- ソフトウェア製品のテストを実施し品質を確保することで、安心・安全なICT社会を実現

ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予想したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、この計画・予想などとは異なる場合があり、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。
なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。



